第二百四號

NAMBEI SHIMPO

29 de SETEMBRO de 1938

週刊南米

サンパウロ市ピーレスレー
モッタ三八一番地
發行所 南米新報社
購讀料 一年 二〇三ミルレイス
廣告料 一段 六〇ミルレイス

言論

在伯同胞の愛國運動

もつと眞劍にやつて呉れ

〈皇軍の向ふ所敵なく金城鉄壁とたのむ漢口の陥落もいよ〳〵目前に迫つた、然らば漢口を落せば、それで大勝利日本帝國萬々歳かと云へば、決して左に非ず所謂眞の非常國難はまだまだ先からだとされて居る從つて日本國民として之れに應ずる覺悟、銃後の務めは將來更に深められねばならぬ。

△

飜つて在伯邦人の愛國運動を眺めると、國防献金、愛國婦人會への献金、献金シネマや慰問袋、銀紙の献納、兒童繪畫を以てする慰問、千人針、また進んで慰問使の派遣等々報國盡忠の赤誠は凝つてまことに目覺ましいものが有り、同胞として大に心を強ふせしめて居る有樣である、願はくば今後とも一層馬力をかけ我々の力で出來るだけの働きをして行き度いものである

△

併しながら多勢の中には往々にして斯樣な運動を以て一種の賣物の如く心得る不埒者が出ないとは限らない、現に最近日本よりの報に依れば愛國の美名に隱れて世間を騙着して居た罪惡が發覺し、其の筋から檢擧された非國民さへ有つた位だ、況んや是處は御國を何千里、離れて遠きブラジルである、假りにそうした美名を賣物にする不心得者が出たとしても、世間では唯だ蔭の方で『彼奴は不都合な事をして居るぜ』と憤慨するだけだ、たつた其れだけだ、嚴正批判の立場に在る新聞は黙つて居るし、別に社會制裁が加へられると云ふわけでも無し、勿論、日本の刑法眼が之れに向つて光る筈も無いから、それだけ彼等非國民からは乘ぜられ易い、海外萬里の異境こそ惡黨に取つては正にエデンの樂園だ。

〈幸にして、在伯邦人社會に於てはまだ其れまでの非國民は生れないやうだ、と申すもの、彼の取締の最も嚴重な日本に於ですら法網を潜つて愛國を喰物にする奴が出るほどだから、ブラジルに限つて全く左樣な奴は出ないとは何人も保証出來まい、依つて此の点廿萬同胞社會の名譽の爲めに今より充分警戒を要するところである。

△

今日まで在伯邦人間の愛國運動は大体マジメに行はれて居るが、唯だこゝに聊か遺憾とするは愛國運動をする者に兎角陥り易い弊風『見榮』や『張り合』である『私は是程迄にして母國の爲めに盡して居りますぞ』と世間に自分の働きを見て貰ひたがる風が隨所に見出されるのは甚だ遺憾である斯の如きは吾々のやうに實際に新聞社の編輯室で仕事をして居ると、所謂社會の裏とでも言はうか特にそういふ人々の心事の『きたなさ』が見え透くやうに感はれるものである、時には此の種自家廣告の通信や投書を得て、余りのバカ〳〵しさに『まあ、何んと云ふまもしい根性の持主だらう』と思はず机上にペンを投げ出して、しばし考へさせられる事さへある、つい此頃のことこんな通信がパウリスタ線邦人植民地の顔役某氏から編輯室に舞込んだ。

△

拝啓（中略）小生は事變勃發以來日本國民の忠誠を誓ひ植民地に於ける國防献金運動を眞つ先きに始めたる者に有之候、小生の熱心なる行爲には植民地一同感激致し候、然るに此頃青年の手にて慰問袋を集めサンパウロ日本人會へ送りだる由たゞそれだけの事で聖市二三の邦字新聞に如何にも立派な行爲の如く發表され候へ共、あれは青年會の三、四の者が自分の手柄を社會に見せるためにやつた事を公正なる御社の御承知置きを願ひ度と存じ云々（以下略）——原文のまゝ——

公正なる御社の御承知置きは笑はせる、他愛もない話だ、是れはこの種賣名家のホンの一例に過ぎないが罪に此の賣名家だけを笑ふ事を得ない人が、そんじよそこいちに、幾らでもウヨウヨして居ることを知らねばならぬ、恐らくマジメに愛國運動を考へてゐる讀者にも之れと似た實例を見聞して、窃に眉をひそめて居らるゝ、仁も有るに相違ないなからうと思ふ。

△

古人は、人の爲め世の爲めには勞してほこらず、功有つても德とせず厚きの至りだと訓へた、少くとも日本國民の報國運動はその心意氣で行はれねばならぬ、『俺達は是れだけの盡力をしたんだから新聞に書いて呉れろ』と云ふやうでは眞の報國精神に遠ざかること恰も日伯兩國間の遠きが如く、不徹底も甚だしい、本當に心から出た眞實の行爲なら寧ろ世間に吹聽される事ほど不愉快なものだ、然もひどいのになると十ミルや廿ミル献金して置いて自分の寫眞を新聞に載せて呉れと言つて來る賣名屋がある（勿論本社では、そんな者は頭から對手にせぬが）或は『私達がこれまでに熱心に献金運動して居る事をどうぞ新聞に發表して戴きたい、マタビッショはしますから……』と云つて來るハネ上りの『愛國屋』等々おほよそ吾々編輯室の窓からヂツと覗いて居る『同胞社會愛國運動裏面の風景』中には不幸にして、まあざつとコンナものも有ると云ふ次第を正直に報告し、斯の如きは斷じて排撃されなければならぬ事を改めて強調して置く。

△

言ふまでも無く母國現下の情勢は献金や慰問袋どころだけの騒ぎではない、みんなが一命を國家に献上して働いて居るのである、本紙でも屢々報道した通り、畏くも尊いあたりにおかせもの一半の責任を負はねばならぬは當然で、愛國運動に關する限り父日本人の經營する新聞である限り互に深甚の自重と文章報國の誠こそ切に望まし、即ち現下同胞の愛國運動を常に刺戟激勵して其のマジメなる者は飽くまでこを援ける一方、如上『愛國』の美名を賣物に偽す如き悲しむべき風潮を嚴に警め、是は則ち是、非は則否なりと何者にも因へられざる忌憚なき啓蒙的言論批判を以て祖國未駄目だと思ふ、此の点我々荷も言論通信の業に携はる國運動を考へてゐる讀者にも之れと似た實例を見聞して、窃に眉をひそめて居らるゝ、仁も有るに相違ないなからうと思ふ。

△

古人は、人の爲め世の爲めには勞してほこらず、功有つても德とせず厚きの至りだと訓へた、少くとも日本國民の報國運動はその心意氣で行はれねばならぬ、『俺達は是れだけの盡力をしたんだから新聞に書いて呉れろ』と云ふやうでは眞の報國精神に遠ざかること恰も日伯兩國間の遠きが如く、不徹底も甚だしい、本當に心から出た眞實の行爲なら寧ろ世間に吹聽される事ほど不愉快なものだ、然もひどいのになると十ミルや廿ミル献金して置いて自分の寫眞を新聞に載せて呉れと言つて來る賣名屋がある（勿論本社では、そんな者は頭から對手にせぬが）或は『私達がこれまでに熱心に献金運動して居る事をどうぞ新聞に發表して戴きたい、マタビッショはしますから……』と云つて來るハネ上りの『愛國屋』等々おほよそ吾々編輯室の窓からヂツと覗いて居る『同胞社會愛國運動裏面の風景』中には不幸にして、まあざつとコンナものも有ると云ふ次第を正直に報告し、斯の如きは斷じて排撃されなければならぬ事を改めて強調して置く。

△

言ふまでも無く母國現下の情勢は献金や慰問袋どころだけの騒ぎではない、みんなが一命を國家に献上して働いて居るのである、本紙でも屢々報道した通り、畏くも尊いあたりにおかせもの一半の責任を負はねばならぬは當然で、愛國運動に關する限り父日本人の經營する新聞である限り互に深甚の自重と文章報國の誠こそ切に望まし、即ち現下同胞の愛國運動を常に刺戟激勵して其のマジメなる者は飽くまでこを援ける一方、如上『愛國』の美名を賣物に偽す如き悲しむべき風潮を嚴に警め、是は則ち是、非は則否なりと何者にも因へられざる忌憚なき啓蒙的言論批判を以て祖國未

漢口陥落の運命と對支援助國の態度

奥地へ逃亡後の將政權に對して蘇英米らは何うする？

【ハルビン特報】蔣政權は漢口放棄、奥地遁入を前にして、ソ聯及コミンテルンへの依存政策を強化しつゝあつたが、確實なる筋への情報によれば、このほど中國共産黨中央委員會は（一）單一抗日民族戰線をさらに擴大強化して勞働者、農民、青年を含む一切の排日潮体及び政治團体を包容統一すること（二）事變終結に於いても協力を繼續し、自由民主々義及び平和主義者に對する左記各項の遂行強化ならびに、國共合作強化の二方針を決定コミンテルン本部へ提出承認を求めた模樣であつてこれに對しコミンテルン執行委員會幹部會は支那支部の申出の承認をなすと共に對蔣援助積極化ならびに抗日世界戰線再組織の綱領を決定し世界各地の支部に向つて大体左の如き指令を發し、各種の排日運動、對日ボイコット煽動して居る、コミンテルンの通りである（一）コミンテルンは世界の同情を各地に於いて積極次ぎの方針により組織すべし（イ）支那精神的、物質的援助（ロ）日本の對支出兵に對する反戰運動（ハ）日本の對支進出に對する一切の困難及び障害の増大（二）右目的のためコミンテルン執行委員會は國際プロレタリアート、コミンテルン各支部及び一切の民主々義及び平和主義者に對する左記各項の遂行を決定日本の行動及び支那國民の英雄行爲を宣傳すること（ロ）反日集會及びデモンストレーションを盛んに催し大衆の憤慨を各國の親日新聞に向はしむること（ハ）日本に對する大衆の怨嗟（日本商品のボイコット、日本品及び日本向軍需品などの荷役の拒絶）の組織及び擴大（ニ）支那のための資材の募集及び藥品、醫療機械の送附（ホ）支那政府との協定により各國より權威ある代表者を支那へ送りもつて彼等を對支援助國際運動の強化に利用する事

日本軍の向ふところ眞に敵なく、漢口の陥落も最早時間の問題となつた、而して漢口陥落の結果、蔣介石は恐らく噂の通り雲南か又はその他の奥地に逃亡し、邊境の一地方政權として余命を繋ぐのが關ノ山だ、然かし彼の逃亡に依り何日内部的に分裂し、結局没落の運命に陥るやも計り難い、だが彼自身はいつまでも抵抗すると云ふて居るから、日本としてはそう見て置くのが安全だらう、其處で問題は蔣介石の地方政權に對し、今後第三國が如何なる態度を取るであらうかと云ふことである。尤も第三國と云つても、その實ソ、英米の三國に過ぎないのであるが、ソ聯の對支援助が何れだけの程度のものであるかは疑問であるが、支那事變は一面から云へば、ソ支の聯合戰であるから、ソ聯の援助は假令强力なものにあらずとも、永續的のものに觀ねばなるまい、之に反し英國の望むところは支那に於ける權益を保持することであるから、利害の打算に依つて行動する必要があり、何日でも蔣介石と心中する譯には行かないだらう從つて問題は英國が之に對し如何に利害を打算するだらうかであるが、目下の彼は支那に對し尚多くの未練を有し事に依れば經濟上日本の方が先きに參るかも知れない位に考へて居る樣だから、今直に蔣介石を見離すといふことは英國に取り極めて困難な樣である、然かし愈々漢口が陥落し將介石に對してこの上援助しても無益だといふことが判つた場合には、恐らく英國の對支政策は大轉換を見るのでないかと云ふのが常識的な見方であらう。

米國に至つては支那に對する實際の利害は英國ほど甚大でない、從つてこの事變に對する關心は寧ろ主義的又は理想的範圍を出でないものと見るべきである尤も英國としては出來得る限り米國と協同戰線を張り、以て日本を牽制し樣として居ることは疑のない事實である、現にこれまで英國はその爲總ゆる努力を拂つて來た、恐らく今後も同樣だらう、然かし米國は今日まで之に對し警戒した樣に、今後も恐らく同樣に警戒するだらう、佛國に至つては英國に追隨する外ないのであるが、現在のところ自力のほどを願みず鐵道建設、鑛山開發等の利權の抱込み支那に對し武器輸出を行つて居るけれども、これは日本に於て斷然たる態度を以て臨むならば、問題は容易に解決するだらう、要は日本の之に對する決意にあるのみである。

若しそれソ聯に至つては同國の國内不安の實情と、歐洲の緊迫せる國際情勢とに鑑みこの際日本に對し武力抗爭を試みるが如きことは殆ど不可能だと見られて居る、然かし彼の目的とするところは、日本を弱くし同時に支那を混亂に導き之を赤化することにあるのであるから、進んで日本と戰爭することを避け、他方將介石を助けて長期抵抗を續けしむることを努めるだらうことは想像に難くない、尤も彼は屢々日本に對し挑戰的態度に出ることが無いではない、その最も顯著な實例は樺太石油及石炭問題に對する駐引特に最近張鼓峰に於ける越境築塞事件の如きが即ちそれである、その眞意は恐らく日本が對支戰爭に忙殺せられ蘇聯に對し積極的行動に出で得ないと見縊り、さてこそ虚勢を以て日本を威壓し、併せて將介石の爲に日本を牽制せんとするものなるべきに依り我國は之に對し斷然たる決意を以て臨む外あるまい

●忠義な家來？

『貴紙は愛國主義即ち過激な新聞だ、身の程知らずの新聞だ何故なら何百万圓の資本を運用するブラ拓など大きな所か國策上考へてやる仕事にケチを付けて居るからだ、堂々たる日刊が支持して居る大ブラ拓に向つていくら吠えても駄目と云ふ事は恰も三井や三菱の大財閥に向つて貧乏人が吠えると同じ返つて身の破滅だと云ふ事を知れ』と云ふ妙な投書がチエテ一ブラ拓黨生と云ふ匿名で本社へ舞込んだ、そうしたら數日を經た本月廿三日チエテアレグレ青年團の名で今後南米新報の世話は出來ぬから當方面へは新聞を送るなと云ふ通知が來た、前後を察するとブラ拓の批判を書く新聞は過激危險だからいけないと云ふのであるブラ拓も忠義な家來を持つたものだ。

棉花會議

○

資本家や企業家と云ふ者は自分の懐中を太らせる爲めには、隨分勝手な眞似をしたり虫のいい事を云ふものである、今度の日支事變で其れがハッキリと國民の眼に映じて來たやうだ、國家が自衛上産業の總動員をやらうとしても、一番に之れを邪魔するものは資本家階級である、軍部や眞に國家を憂ふる有志が憤慨するのも當り前だ、國家の利益と彼等私利私慾のみの資本家が望む利益とが却々一致しない所に國家としての大きな惱みがある。

○

非常時支出豫算幾十億圓の殆んど大部分が結局彼等資本家の懐中にころがり込んで行く、そして一死報國の如き國民大衆即ち貧乏人の中から其の多くを出して、猶且つ貧乏人は種々な方面で國費の重荷をヨチ〳〵負擔しても、まだ足らず其の上勤儉貯蓄を强ゐられてゐる、辛して食つて通るだけの貧乏人に貯金をしろと云ふのだ。

○

然し今は君國の一大事だから夫れも可い、我々は骨を削り石に噛りついても忍んで行きませうと云ふのが現在の日本國民だ、そういふ母國の兄弟達を思ふ時、斯うしてブラジルで太平樂に過ごして居る事が如何にも勿體ない、相濟まないやうな氣がしてならない、斯の如く日本國の愛國の意氣に比較して一部資本家達の横着さを見よ、此頃の母國新聞は何んと憤慨して居るか、『各省の節約總額にたつた一億、國民に節約を强ゆる愛格ありや、畫は日の丸辨當夜は新橋の紅燈緑酒』とは克くその間の消息を一言に盡して居るやうだ今更の如く過ぐる五一五事件や二二六事件の必然性が点頭させられるではないか。

○

此の一部資本家や企業家の横着さ加減を說明するものに本月廿二日の日伯紙に於て傳へた大阪の東洋棉花株式會社その他一流の棉花會社が戰時統制破りで擧げられ、數百万圓に達した云ふ事實がある、斯の如く祖國の艱難に際して私利私慾の爲めには國法を破ることさへ意に介しない上方ぜイ六の棉屋だ、産業躍進の波に乘つて、このブラジル邦人社會にまで搾取の魔手を伸ばして來て居ると評されても一言の辭もあるまい。

今度の棉花會議實は借金會議が結局雜關に打つかるといふのも、大体こんなケチ臭い棉屋共を相手にするからだ、日本人の作つた棉を日本人の棉屋が買はせて戴く、それに對し生産に必要な資金を融通しろと云ふのは當り前の話である、だが、日本人の棉屋が買はせて戴く、それに對し生産に必要な資金を融通しろと云ふのは當り前の話である、だが、現在の日本國民の大部分は、戰時統制破りで擧げられ、彼等の闇取引高實に數百万圓に達した云ふ事實がある、斯の如く祖國の艱難に際して私利私慾の爲めには國法を破ることさへ意に介しない上方ぜイ六の棉屋だ、産業躍進の波に乘つて、このブラジル邦人社會にまで搾取の魔手を伸ばして來て居ると評されても一言の辭もあるまい。

今度の棉花會議實は借金會議が結局雜關に打つかるといふのも、大体こんなケチ臭い棉屋共を相手にするからだ、日本人の作つた棉を日本人の棉屋が買はせて戴く、それに對し生産に必要な資金を融通しろと云ふのは當り前の話である、だが、日本人の作つた棉を日本人の棉屋が買はせて戴く、それに對し生産に必要な資金を融通しろと云ふのは當り前の話である、だが、現在の日本國民の大部分は、戰時統制破りで擧げられ、彼等の闇取引高實に數百万圓に達した云ふ事實がある、斯の如く祖國の艱難に際して私利私慾の爲めには國法を破ることさへ意に介しない上方ぜイ六の棉屋だ、産業躍進の波に乘つて、このブラジル邦人社會にまで搾取の魔手を伸ばして來て居ると評されても一言の辭もあるまい。

今度の棉花會議實は借金會議が結局雜關に打つかるといふのも、大体こんなケチ臭い棉屋共を相手にするからだ

事實は小説よりも奇

鬼畜も三舎を避く
蘇聯共産政權の暴虐を發く

是でも人間の世界か地球上の無限地獄

蘇聯大官赤裸々の告白

古今未曾有の秘密主義を嚴守するソヴエート聯邦の眞相は、實際之れを體驗した者でなければ到底知ることを得ないと言はれてゐる、故に本紙は前に幸じてソヴエートの魔手から逃れたドイツ人十二名の實驗談を紹介して社會主義國裏面の一端を曝露したが、本號に於てはソ聯秘密中の秘密ゲ・ペ・ウの活躍振りを描寫し、社會主義、共産主義の最大武器たる階級闘爭が如何に恐るべき生地獄を實現せしめたかを紹介せんとするものである、共産主義が論理上狂氣國との世の地獄を實現すべきは既に識者が豫測してゐた所であるが、共産政治二十年後の今日に於て實に想像も及ばぬ戦慄すべき無限地獄が展開されたのである左の記事はソ聯と親善關係にあるチエツコ・スロバーキヤ市民たる理由と、妻君の必死の猛運動により萬死に一生を得漸く歸國する事を得た大官の赤裸々の告白で、一言一句眞實を吐露したもので事實は小説よりも奇とは實にこの事であらう、鬼畜も三舎を避けるソヴエート共産政權と同盟を結び、或は親善關係を持續する歐米の文明國人は果して眞誠の文明國人であるのか、若し利益の爲には共産黨と握手しても宜しいと云ふ文明國人があるならば彼等は唯物主義者で、目的の爲に手段を選ばぬ共産黨と何等異なる所なく、結局生地獄に陥り、物質的文明は終に沒落するのは必然である。

着のみ着の儘で犬の如く街頭へ

一九三六年の末葉から、私の住んでゐた都市（オデツサ）に於ては家宅捜索、逮捕、無裁判の没收、流刑強制労働及び銃殺が益々頻繁となり、テロールは愈々其猛威を逞ふし、凡ゆる地位階級及職業の人々を震駭せしめた、コルホーズの農民、労働者、薄給の奉公人専門家、軍人等は、數十人數百人若しくは數千人一束となつて消失した、無告、無勢力の者のみが一夜の中にその影を没したのみでなく赤い總督――縣、省の共産黨委員會の秘書――も赤監獄の門を潜ぐらせられたのである。

△

スターリンの代理人とも謂ふ可き黨秘書は堂々たる宮殿に住居し、贅澤な家具と外國製の無音の自動車を所有し特別の番兵に護衛されて居た、彼は豪慢で虚榮心に富み無限の權力を有し彼が住居する宮殿附近を通過する電車が騒々しいと云ふ不平を洩らしたのみで、電車軌道は移轉された程であつた、然るに一朝、彼が檢擧されるや、孔雀のやうな細君は、華美な家財道具を取上げられ、直ちに、窓ガラスは破れ、がらくた道具のみある半地下室に追遣られ、夫妻の所有物の二十分の一しか携帶するを許されなかつた、有爲轉變、榧花一朝の夢とは眞にこの事なりと思はれた、だが下級員及び普通民の檢擧は更らに悲慘な結果をもたらした彼等の遺族は所有家屋は勿論住所さへ取上げられ家財道具は悉く之を携帶するを禁ぜられ、新住所は無論指定されず、たつた今、夫や父や或は衣食の給與者を失つた無一文の婦人は子供と共に着のみ着のまゝ犬のやうに街頭におつぽり出されたのである、彼等遺族は今後どんな悲慘な生活を營むであらうか。

死に切れぬ者は其まゝ、生き埋め

一九三七年の九月頃、三千二百人を收容するに足る市の刑務所は、二萬五千人以上の囚徒を以て充滿されたのであるが、九月以前の七月八月の二ケ月間に殆んど同數の囚人が流刑に處せられ或は銃殺された、約五十萬の人口を算するわがオデツサに於て、一九三七年の一ケ年内に、平均三家の中一家は必ず被檢擧者を出したのであるが、今頃はこの比率が更に增加してゐるのは明かである

六日の間に二回死刑が執行され、貨物自動車は死刑執行毎に六十乃至百の死體を刑務所から搬出した、これ等の死體は、市の共同墓地深くもない大穴に一所に投げ込まれ、僅に半メートル位の厚さに土を無造作に振りかけて置くに過ぎないから、生々しい屍が膨れ上る時には、墓が恰も生きて居るかのやうに土が盛り上り、埋められた者の手や足が度々ぬつと地上に現はれ又未だ死にきれない者を其のまゝ、生理にすることもあるので時々地下から哀れな呻聲が聞へる事もある、鬼哭秋々とは東洋流の形容詞でなく、ソヴエートの實況なのである、昨年十一ケ月間の市の監獄――屠殺場、から約七千の死體が搬出され、右共同墓地に投込まれたのは事實である

近親者の痛心と忍び難き責め苦

朝から晩迄、晩から朝迄降らうが照らうが、嚴冬でも、炎天でも、群集は刑務所を取り卷いて居た、人々は差入の爲め、或は問合の爲め、或はゲ・ペ・ウの集合收容所へ護送さる、囚人を見る爲め、其他種々雑多な用事を果たす爲に、牢獄の高い煉瓦壁の周圍に畫となく、夜となく、一晝夜も立ち、すわり或は横になつて居た

△

群集の大部分は檢擧者の妻、兄弟、姉妹及び子供等であつた、群集は互に憂愁を分ち、或は長大息し、或は十字をきり、或は泣き叫び、時としては悲嘆の極、重傷を負ふた獣類の如く咆哮し或は地上に轉輾した、市民全部は久しい以前から多少に拘はらず恐怖と明日は不明の拷問にかけられ、中には最早堪へきれず發狂する者もあつた、ソ聯邦に於て自殺者、發狂者及び白痴の多いのは實に是れが爲めである

△

ソ聯人民は今や一列に精神的拷問にかけられ憂みの日を送つて居るが、事實上の拷問は檢擧の瞬間から始じまる、何となれば何故に檢擧されるか、この期限及結末を知る事を得ず常に恐怖の念に襲はれたからである、被檢擧者の運命は、外國人より見れば、死生不明の中間にぶらさがつて居るやうに思はれるであらうがソヴエート住民の大多數には檢擧即ち死を意味する、何となれば入獄者の大多數は行衛不明になるからである

時日の經過するに從つて恐怖の念は靜まるどころか却つて益々猛烈となつた、ソヴエートのあらゆる事物が恐怖を挑發するのだ、その底止する所を知らぬ新檢擧、刑務所の門から引出される、痛々しい流刑者の團體所では正確なる通告を爲さず、消失した者の近親者は彼等の姓名が在獄名簿にも早や無いことを知るだけである。『名簿にない』との文句は意味深長であらゆるものを表示し、遂に最も悲しむ可き憶測を喚起せしめ、恐怖は變じて悲痛となる、悲痛ではあるが遺族には必要なる通告を受とる可く、官衙から官衙への日參が始められるが、少しも其の甲斐なく、遺族婦人の顔面は石化し、その眼は死人の眼の如く全く光を失ひ、或は發狂者心それの如く火のやうに燃え、精神は永久に破碎されるものである、被檢擧者の消息が判明する迄は永い悲痛困難な日月を要する、そして彼が辛ふじて生命を全ふしてゲ・ペ・ウの集合收容所にゐることがやつと判明した場合には、食糧差入許可の運動が必死的に開始せらる、何となれば食物の差入れがなければ彼の早い死滅は必至であるからだ

間斷無き檢擧に市民は神經過敏

大都市五十萬の全住民は明日の不明と恐怖との見えざる拷問を體驗しつゝあるこの惡魔的拷問はいつ終息する興味を失ひ、入牢の仕度を急ぎ、寢る時も警戒を怠らず、夜間自動車の微音を聞いたのみでハツと眼を醒まし、終に寢食を安んずること能はざるに至つた

家宅捜索と檢擧は夜間に行はる、のを常例とするから、最初は曉天が安心を與へた、然しながら暗黑な夜はゲ・ペ・ウの仕事に不便な場合があるので、遲い朝迄も捜査が續けられるやうになり、太陽も夜の不安を除去すること能はざるに至つた、人心惚々、寢食不安は形容詞ではなく、オデツサ市は勿論ソヴエート全體の現狀なのである

來ない者は遂に惡夢は實現

私の神經は頗る頑强、未だ曾て涙を知らず、一度も嫌疑を受けたことなく、堅實な勤務に從事し、上官の覺えは目出度くして十分の信頼を得、政治には全く無關係であつた、それだのに周圍の雰圍氣に脅かされて、いつからともなく不知不識の間に、檢擧の順番が來るであらうと感じ始めた檢擧、流刑、銃殺に關する噂が頻繁となるや斷然意を決して妻と共に窃かに、投獄の場合に於ける準備を十分に整へた、葱、獣脂、乾パン、シヤツなどをつめ込んだ犬皮製の袋、鞭、必要な場合にはナイフに變へることの出來る肉匙、其他集合收容所に必要と思はる、物品を準備して壁にかけて置いた

△

自動車夜間の微音はすぐ夢を破り、長時間の熟睡を妨害し始めた、眠れない時には、革命時代に苦んだ父や、銃殺された兄弟、日島『は途中二度止まつた、ゲ・ペ・ウの役人は新捜索の後更に新被告を縛り上げて來たのだ

△

朝の七時頃『黑島』は市の刑務所に到着、監視人は手荷物と共に我々を監獄の守衛に引渡した、没收した物品は、ゲ・ペ・ウ州支部に送付された、ゲ・ペ・ウは既に豫め被檢擧者の獄舍及部屋を指定してゐたので、守衛は我々を別々に指定の建物に護送した

私が護送されて行く獄舍の内庭には、流刑地或は集合收容所へ護送さる可き囚徒の一群が蠢動してゐた、私は始めて囚徒を見たのであるが、一行の人數は二百乃至二百五十、衣服は破れ形容は憔悴且つ顔る汚穢であつた、腫上つた黄色の顔行動は大病人の如く甚だ緩慢、疲勞困憊、抵抗力は皆無、失神狀態で何事にも無關心のやうに思はれた、私は彼等を一見するや、前途全く不明の時日を經過した後には、私もこの一群と同樣に恐る可き懲役に苦使され、多分死滅するであらうとの意識が閃き膽が九廻した

――全國民は政府に從つて最後まで戦略國に對する防衛戦を押し進めるであらう

――元帥は、現下の戦爭の終局について如何が御推測なされますか？

――これは、日本にとつては非常に高價なものとなる長期戦とならう、軍備は高度の技術裝備に對して、支那軍は機能と既に眞價を發揮してゐるゲリラ戦術によつて對抗するであらう

――元帥は、抗日精神が支那民衆の間に非常に根强く植えつけられてゐるとお考へですか？

――斯の如きが、人口四億の國の軍事的獨裁者の地位に、論廓は端正で立派だ、手は美しく手入が行届いてゐる。短い髪のある上唇は上品で冷やかな微笑のうちに、本當とはおもへぬ程完全な歯並を微かに見せてゐる、眼ざしのうちには不思議に生々とした光輝がありそれは温厚と柔和の假面の陰に激情を隱さうとしてゐるのだと云はれてゐる

◇

斯の如きが、人口四億の國の軍事的獨裁者の地位にまで達し、戦爭の總帥であり、數度の悲劇的冒險の主人公であるとは思はれぬ位で寧ろ舊制度の下における高位高官のそれに適はしい蔣介石である

――佛蘭西國民は、と元帥蔣介石は筆者に逃べた、常に支那と友好關係を維持して出た、フランス人は屢々わが國に對して同情の意を表された、かゝる同情が繼續することを余は疑はないし、また國際聯盟のメンバーの資格を以て佛蘭西政府が、今回の事變に際し正義が支那に歸せられる樣、全機能を發揮されんことを希望する

筆者は つゞいて、確か數日前、前線觀察から歸つた元帥に、支那軍の精神的及び肉體的狀態を滿足なものと思惟されたかどうかと尋ねた

――完全に滿足すべきものである、と元帥は、變らぬ調子と靜かな聲で答へた

血煙る武昌と漢口の印象（6）

（巴里新聞特派ドーマツソン）

◇

遂にもう一方の扉が開かれ、中背の、極めて瘠身の衣服は簡素であるが下袴とカーキ色の短い詰襟服は優美さを失はぬ、飾紐や徽章や勳章など何一つ身につけずに、黑塗の上靴を穿いた一人の男が筆者に向つて進んで來て手を伸ばした、これが蔣介石其人であつた、彼は五十二歳であるが、四十五歳位にしか見えぬ、顔は憔悴し眼は窪んでゐる

△

被檢擧者が他の牢獄に移され、或は集合收容所に送られ『强制劣役の爲に』或は自然に死亡し、或は銃殺された場合に於ても、刑務所では正確なる通告を爲さず、消失した者の近親者は彼等の姓名が在獄名簿にも早や無いことを知るだけである。『名簿にない』との文句は意味深長であらゆるものを表示し、遂に最も悲しむ可き憶測を喚起せしめ、恐怖は變じて悲痛となる、悲痛ではあるが遺族には必要なる通告を受とる可く、官衙から官衙への日參が始められるが、少しも其の甲斐なく、遺族婦人の顔面は石化し、その眼は死人の眼の如く全く光を失ひ、或は發狂者心それの如く火のやうに燃え、精神は永久に破碎されるものである、被檢擧者の消息が判明する迄は永い悲痛困難な日月を要する、そして彼が辛ふじて生命を全ふしてゲ・ペ・ウの集合收容所にゐることがやつと判明した場合には、食糧差入許可の運動が必死的に開始せらる、何となれば食物の差入れがなければ彼の早い死滅は必至であるから

△

被檢擧者が他の牢獄に移され、或は集合收容所に送られ『强制劣役の爲に』或は自然に死亡し、或は銃殺された場合に於ても、刑務所では正確なる通告を爲さず、消失した者の近親者は彼等の姓名が在獄名簿にも早や無いことを知るだけである。『名簿にない』との文句は意味深長であらゆるものを表示し、遂に最も悲しむ可き憶測を喚起せしめ、恐怖は變じて悲痛となる、悲痛ではあるが遺族には必要なる通告を受とる可く、官衙から官衙への日參が始められるが、少しも其の甲斐なく、遺族婦人の顔面は石化し、その眼は死人の眼の如く全く光を失ひ、或は發狂者心それの如く火のやうに燃え、精神は永久に破碎されるものである、被檢擧者の消息が判明する迄は永い悲痛困難な日月を要する、そして彼が辛ふじて生命を全ふしてゲ・ペ・ウの集合收容所にゐることがやつと判明した場合には、食糧差入許可の運動が必死的に開始せらる、何となれば食物の差入れがなければ彼の早い死滅は必至であるから

△

自動車夜間の微音はすぐ夢を破り、長時間の熟睡を妨害し始めた、眠れない時には、革命時代に苦んだ父や、銃殺された兄弟、日島『を追ふて增加する行衛不明の親友知己等を追想しつゝ、うつゝの間に、動かない黑い眼を持つ粘液性の巨大なる怪物が茫然と現はれ、白盤のある足を、遠くから靜かに延ばして來るのを感じた、怪物がはつきり見えるやうになると、私は床から立ち上がりわざと點燈せず室内を歩みつゝ、喫煙するのだつた

怪物が漸次遠ざかりその影を沒するや、怪物の代りに恰も火の透明畫のやうに又た意識に不吉な文句が腦中に閃いた、この文句は以前も度々耳にした事があつたが、いつもの自身には關係のないものと思ふて居た

來ない者は屹度來る、來た者は忘る、ことを得ない！

凡てが本當であつた、實現されたのだ、―將に來たらんとする不幸の豫感、怪物章魚の形に於て現はる、テロールの恐ろしい像、牢獄及集合收容所のバラックの壁に數千回も刻まれた此の革命の困難―

△

一九三七年九月十日の夜の二時に、私の順番がとうゝ來た！平服を着た二人の監視、制服の民兵一人及立會人の資格で門番一人都合四名が惡魔のやうにやつて來た、傲慢極まる態度で人民委員即ち、ゲ・ペ・ウの命令書を突きつけ、緻密、迅速な捜索、實に見事な手際わざだ、フトンや枕を觸試し、妻も無作法に探索し、箱、家具、書籍、竈、便所殘る隈なく審査し、壁をトン〳〵叩いた、總ての書面事業上及個人的書類一切、金銀細工物及金錢の大部分を沒收し、最後に私を逮捕したのである

窓に鉄格子のある黑色の大自動車が家の外で待つてゐた『黑い大鳥』の内には語學と音樂の先生フランスの老女と純勞働者出身の共産黨員一人が腰をかけてゐたので、私は第三番目の犠牲者であつたわけだ、『黑鳥』は途中二度止まつた、ゲ・ペ・ウの役人は新捜索の後更に新被告を縛り上げて來たのだ

△

牢獄、大建築物の廊下は電光燦然、空氣清鮮、且つ清潔なるには一驚を喫した獄室の戸と外壁はペンキを以て塗飾され、アスファルトの床は黑色の漆で塗りつぶされて光を放ち、一片の塵をへなく、壁に添ふ床の兩側には狭い赤色の舗道が走り、天井は新らしく光つて居た、獄舍は超滿員となり、その恐る可き生活は地獄よりも甚だしとの囚徒の噂と、此の一點非難す可からざる衛生的清潔な廊下などを對照して私は一寸奇異の感に打たれた、婆婆の話は餘りに誇張されてはゐまいか？との期待が一瞬腦中に閃いた、だが一時間前に刑務所の内庭に於て一見した流刑者の哀れな一群を回想するや、私の疑惑は忽ち氷解されたのである、そして其後牢獄室内の實生活を對照して私には、この清潔の廊下は、共産政權の雄大なる正面、妄想的ローズング及び虚飾的大成功と、ソヴエート内のあらゆる事實との最も明白なる表裏の象徴となつた、この私は、ソヴエートを見學に來た外國人が、監視人の案内でこの廊下に來り、何か大に感心して賞問を發し、新らしい手帖に記入しつゝあるのを見受けたが爾來私は、外國人隣者の一手段に過ぎないこの廊下を極度に憎むやうになつた、ソヴエートの表裏、欺瞞政策は大むね斯の如しだ、ソヴエートの欺瞞に惑はされる外國人こそ氣の毒千萬であるが、若し彼等が一知半解その誤まつたソヴエート觀を振り廻はして害毒を世に流がすならば、彼等も亦この廊下と同樣唾棄すべき代物である

廊下は電光燦然 欺瞞政策の標本

光も空氣も無い 前代未聞立部屋

獄卒は、三階にある一室の前に立ち、大きな鍵をガチヤツカセ、さつと重い戸を開いて、入れ！と命令した、だが私は入ることを得なかつた、若し辛ふじて入り得るとしても、私は突然動けなくなつた、本當に硬直せれんが四肢や筋肉を鍛接し、立つて居る場所に私を釘付けにして了つた

九乃至十メートル平方の獄室は平常、定員三人位で唯一の窓は板張だから光や空氣は、不注意にはめられた窓枠のすき間から洩入る位で、室内は薄暗く、印刷物を讀むことも困難だ、呼吸、汗、永らく沐浴しない躰及汚穢な衣物から出る悪臭で充滿され、重苦しく濁氣あり、嘔吐を催ふさしむる空氣がたつた今あけられた戸から廊下へ突進した、狐の穴や熊の洞穴の空氣はこの獄室のそれと比較するならば透に新鮮で清潔である、何となれば彼等の棲家にはこんなに多くの生物が居らないからだ、蚤しゲ・ペ・ウは後に逃ぶるが如く一種特別の目的を以て人を鮨詰にしたのだ、この獄室では、人々は互に壓搾された、厚い壁は、直ぐ戸の方面から築かれてあつた、囚人は熱氣と吐息で汗を流がし眼は眞赤になり病んだ苦痛の顔手は肩からだらりと下り、力なく頭を垂れた姿勢、換言すれば半死半生の大病人が辛ふじて立つてゐるのだ、人間がやつと堪へ得る極度の疲勞困憊及び前途全く光明なき絶壁の繪畫は、之を實見した者は名畫伯のみが描寫するを得るのみ、吾人の拙筆のよくする所に非らず、賢明な讀者の諒察を乞ふ

獄卒は、入れ！と嚴酷に命令を下した

獄室では、場所がない、場所がない！我等は窒息しさうだ！と騒ぎ始めた誰かゞ叫んだ、オー神よいつこれがお仕舞になるのか？

他の聲が響き渡つた、新參者だ、新參者だ！婆婆からだ、ニュースがあるだらう、入れなければならぬ後へさがれ！

この返答として誰かゞ叫んだ、でも場所がない、我々の間には針も立てられない！

△

暫くして群集には何となく動搖が起り、人間の壁が少しく後退したやうだつた

監視人は怒つて號令した入れ！そして私の背中をうーんと押した、私は、どうしても這入れないじやないかと反抗した、監視人は這入れ！と再び叫びながら、私の腰部に手をあて、足を床にふん張り、全力を擧げて私を生きた壁に押し付けた、だが壁はびくともしなかつたので、彼は最後の策として、私を其儘に立たせ置きながら、廊下の方面から戸は無理やりに締めた、この强壓の爲に私の肋骨は少々痛んだが、半分間の後も戸を堅く締められ、錠がガチヤンとおろされたかくて私は無理往生に新

（第三面へつゞく）

尋人

本籍東京府荏原郡荏原町
前住所モジアナ線ベントキリノ驛サンタ・エリザ耕地
田中乙吉
明治十九年十一月生

本籍地福島縣安達郡高川村
前住所サンパウロ・ゴヤス線タライア驛グワラニ耕地
伊藤貞江
明治三十五年八月生

本籍地山口縣厚狹郡
前住所モジアナ線ジヤルジノポリス驛
西澤喜久松
明治三十年八月生

右の者の現住所承知致度に付本人若くは御承知の方は當館へ至急御一報相煩度
昭和十三年九月廿二日
在リベロン・プレート
帝國總領事館分館

料亭青柳
聖市 ルア タバチンゲーラ 五六
電話 二一一九四八番

土地!!
場所 アルタ、ソロカバナ
珈琲、棉作、米作、ミーリヨ
其他好適の地、健康にも宜し
右壹百アルケーレス賣却又は貸しても宜しい
御照會は左記へ
WADIH ABISSAMRA
RUA SAYAO LOBATO 123
TEL: 3-4324 C. P. 2417
S. PAULO

大阪商船
發着廣告
日本へ
北米經由 ぷえのすあいれす丸 Santos發 二月二日 横濱着 三月二七日
北米經由 らぷらた丸 Santos發 十月四日 横濱着 二月六日
日本より
ケープタウンより ぷえのすあいれす丸 神戸發 九月四日 Santos着 十月四日
らぷらた丸 神戸發 八月十一日 Santos着 九月四日
サントス ブラジル大阪商船會社
(Soc. de Nav. Osaka do Brasil Ltda.)
Rua Cidade do Toledo, 31 SANTOS
聖市 伯剌西爾大阪商船會社出張所
(Soc. de Nav. Osaka do Brasil Ltda.)
Filial de S. PAULO
Rua da Quitanda, 82 S. PAULO
リオ Wilson Sons & Co. Ltda.
Avenida Rio Branco, 37
詳細は弊社又は下記代理店へ

リオ醫大出身
伯國歯科醫學士
北川重信
診療時間 午前八時至十一時三十分 午後一時至九時三十分
聖市 イルマン シンプリシアーナ二二
伊藤陽三商會二階 電話 二一五六二二

薄利多賣
品質 本位
◇味美しくて 朝の利くお醤油
黑島印醤油
製造人 黑島伊平治
北西線ブロミツソン驛前

急告
本社宛の郵便物は一切ルアー、ピーレスダ、モツタ三八一番に願ひます（郵函番號宛はお斷りします）
●尚編輯や廣告や購讀に關する御用件の手紙にはたゞ南米新報社編輯部（或は營業部）御中とだけで個人名御記入無きやう御注意願ひます
聖市 南米新報社

我國體の變革を謀つた赤魔ら遂に送局

人民戰線派の帝大教授を初め中心人物第一回送局

【東京特報】昨年十二月十五日以來數次に亘つて檢擧した勞農人民戰線派の帝大大内兵衛教授をはじめ、猪俣津南雄等勞農派中心人物は治安維持法第一條に依る『國體變革を目的として組織された

祕密結社

として勞農黨を、又爾余の日本無產黨全評教授グループを秘密結社の外郭團體と認め、數日前に中心人物の第一回送局を見、取調べに當る檢事局も栗谷部長檢事を總指揮格に長谷川、井本古橋、長部の五檢事を擔當に決定事變下に合法假面にかくれて蠢動暗躍した赤魔に斷乎峻烈なる解剖のメスを押ふ事になつた。

本事件の實躰を把握するに當局が最も苦心したのは從來抽象的な存在と見られた勞農派を人民戰線運動の母體と認定し之に治安維持法第一條を適用して斷乎處分するに方針が決定する迄の經緯であつた、一體勞農派の名稱は日本共產黨が山川イズムと福本イズムの兩派に分れて論爭、その結果兩派は分裂し、福本の正統派に對して、山川均等の一派を勞農派と呼稱し、荒畑高津、鈴木等が之に參加するに至つて我國左翼戰線に隱然たる勢力を扶植するに至つたものである。

その後昭和六年機關誌『勞農』が發刊されるに至つて一派の

中心人物

は合法左翼政黨に分散したが『勞農』創刊當時山川に依つて起草決定された『勞農派綱領』と云ふ非合法綱領がその後の同人の行動、運動方針等を規定し今日迄嚴守されて來たもので、昭和十一年七月日本無產黨が結成された時宣言綱領として發表されたものは實はその山川の『勞農派綱領』を合法的に改訂したものに過ぎなかつた、此の勞農派綱領は窮極に於ては同人達の思想的根據及び其後の行動からコミンテルンの野望たる國體變革を目的とした非合法な秘密結社であると認定となつたもので『勞農』廢刊後もかつての同人達は

各所

にて秘かに會合してゐた事實も判明、檢擧と同時に結社禁止を命ぜられた日本無產黨、全評等が勞農派を母體として結成された事は其幹部かかつての勞農同人である事に依つても明かで、大森義太郎、向坂逸郎等を指導者とするグループが同樣『勞農派綱領』を遵守する非合法研究團體であつたと云ふのが今回の事件のカク心となつたものであるが、時局柄當局は徹底的彈壓を加ふる模樣であるらしい。

戰場の父よ！銃後の母よ！安心して働いて下さい

勇士の兒を預つた銃後美談

『勇士の子確かに預りました、一家は食べなくても、この子は饑へさせませぬ、戰線の父よ、銃後の母よ、安心して働いて下さい』――これこそ正に銃後の力強い支援の話題。

大阪南區竹屋町二九井上定平氏の妻とくえさん(三六)が六月はじめ、ある日の深更街路に凉んで居ると、幼い女兒を抱いた若い母が悄然として通り過ぎるのを訝かつて、後を追ふと、日本橋東方の大和橋上です、り泣いて居るので『出來ることなら相談にのりませう』と事情を問ひたゞしたところ、この子の父は出征して今ま第一線に働いて居るのです、私は內緣の妻で、夫の出征後この子を產みましたが、夫の實家が身分がちがふからと云つて妻として認めてくれないので、上六附近の產婆さんに二十三日預けた養育費二十五圓を身のもの一切を入質して支拂ひ、產婆さんに働く家を世話してもらひましたが、良くないことをす、めるので、居たゝまらず逃げ出しましたもの、、行くべき當てもなく……と涙の物語りをしたので、とくえさんは身分も精しくは聞かず『よろしい、子供も預りませう氣丈夫に何んでも良い仕事を探して働いて下さい』と五圓紙幣を握らしたところ日本無產黨が結成された時治安維持法第一條を適用ものであるが、時局柄當局は徹底的彈壓を加ふる模樣であるらしい。

人の眼は何故口ほど

ものを言ふ？

在リオ　K&K生稿

（完）

ガルヴアニの最初の觀測は斯樣にして間違つたものでありましたが、彼はそのために動物電氣の探査を斷念する事なく、更に一倍の熱心を持つて取り掛つた結果是に關し樣々な面白い事實を發見して居ります、初め偶然に彼が見たのは異種金屬接觸の結果として電流が起る、その起つた電氣の刺戟で筋肉が收縮を起したのでありましたが、次に計畫的に始められた實驗では生體自身の中で起つた電氣に依りその生體の筋肉を收縮させるといふ事、所謂『金屬なしの收縮』に成功したので、つまり例に就て云へば心臟が搏動する搏動のため起生された電氣が腦を刺戟し、更に其刺戟が筋肉收縮の原因を作るといふ樣な事であります、軍艦等は照明に通信に科學の精を盡して設備を施して居る樣ですが、それよりも一層精巧な通信網が吾々の體の中には幾十万年の昔から既に用意されて居たと云ふわけになります。

▽……△

動物の內最も著しい電氣を出すものに魚族が有ります、アマゾンに住んで居る鰻に似た魚等はその中でも著明なものであり、河を徒涉する馬等を感電致死せしめると云ひます、何しろ四〇〇ヴオルト位の電氣を出すと云ひますから、電氣に對して感度の强い馬等が斃されるのも無理はありますまい、是は然し何も人間の樣に他人を睨み倒してやらう等と云ふ好ない了見から電氣を出すのではなくして、一つは自己の防衛、今一つは積極的に自分の食物になる他の動物を攻擊するために與へられた天然の武器であります。

▽……△

鰯の種類にもよく同樣の意味で電氣を起すものがあります、シビンエイ等と通俗的に呼ばれて居りますが、○○ヴオルトと云ふえらい電氣を出すのですから、適當な裝置さへ使へばそれを以て電鈴を鳴らす事も出來ますし、豆ランプを點ずる事も出來ます。

▽……△

唯然し此處では表題に揭げました樣に、何故爛々と電氣は漸く前記の樣に○・○一ヴオルトと云ふ貧弱なものでありますから、微弱な電流を測定する機械がなければ、その存在を確かめる事は出來ないのですが、今逃べた鰻、鰯の類は、四○○ヴオルトと云ふえらい電氣を出すのですから、適當な裝置さへ使へばそれを以て電鈴を鳴らす事も出來ますし、豆ランプを點ずる事も出來ます。

▽……△

唯然し此處では表題に揭げました樣に、何故爛々と面白い事實を發見して居りました百まで、と未來の荒鷲の卵養成を目ざして大日本飛行少年團幼年部の賑やかな結成式が二十一日午前十時から飛行館で擧行された集團は都下代表幼稚兒五百五十名の可愛い坊ちやん、嬢ちやん達、いづれも先生や父兄につき添はれて大元氣、今春新潟縣下で殉死した陸の荒鷲笠井少佐の遺兒杉並第五小學校のユウさん、同四年の敏毅君同一年の陽子さんがお祖父さんとお祖母さんに連れられて出席したのは人目を惹ひた『立部屋』に押込らる、以前の二ケ月間內に、夜間の呼出しで歸室しなかつた者は十七名あつたとの事だ即ち彼等はスターリンの屠殺場で殺されたのである、斯の如く二、三の徵候によつて呼出され同囚の運命を誤なく判定した

△

念の爲に、壓搾された牢室大衆の國籍を逃ぶれば、イタリヤ人一、ドイツ人一、ギリシヤ人一、チエツク人一、殘りの者は悉くロシヤ人と自稱して居た、十九至十二人は共產黨員、他の悉く非黨員であつた、囚人の織業別は、藥學博士一、醫師一、物理學の敎授、飛行士、船長、外國氣船內の黨細胞秘書、食料トラスト商店支配人、中央勞働消費組合の店員、金屬軀體師、技師、コルホーズ上級及下級役員若干名、鐵道從業員若干名、州黨委員會の運轉士等であつた

△

囚徒は合計六十七、私は六十八人目であつた、一平方メートルに付、大男六七人の割合に當るから、腰かける事も、橫になる事も、蹲む事も出來ず、漸く立つて居る事が出來るのみで、囚人は終日立通しでゐた、是が爲に全身は疼み、手足顏は腫れ、靴は窮屈となり痛く締付けた、疾痛は肩腰及頸等にも感じられた、だが痛む肢體を按摩で軟げる事も出來ず、又運動によつて、弱はり行く筋肉に血の流れを逃かならしむることも不能で晝も夜も絕えず不動の姿勢で立ち通さねばならなかつた

永い間不動の姿勢で立つた經驗のある番兵或は嚴格なるギリシヤ正敎の修道院に於て難行苦行した者が此の『立拷問』の苦痛に就て多少の理解を持ち得るものと想像さるが、右二つの場合に於ても直立は數時間である、然るに我が『立部屋』に於ては三十五晝夜も立續けてゐた囚人があつた二週間以內に『立拷問』を免ぬがれた者は極く少數、例外と稱しても差支へない程であつた、又番兵及修道院の苦行者は、この『立部屋』の如き凄慘なる條件の下に立つた事はあるまい

△

空氣中の酸素は大に不足を告げ、囚人の吐息と身體よりの蒸發氣、不潔な下着の臭氣、粗食殊に生パンの爲に發散する放屁等によつて、空氣は全く腐敗して居た

南邦九月の炎熱、囚人はシヤツ一枚であつたが悉く汗を流すので床は常に濡れ又炎天に拘はらず壁からは水がしたゝつた、むか〳〵する臭氣と炎暑の爲に、私は二日目に氣絕した、同囚が協力して、新鮮な空氣が少しづゝ入つて來る不完全な窓の下の涼しい壁の所に私を突きやり立てかけて呉れたので漸ゝ息を吹き返へしあの世に行く事を免れたのである。

歐洲の風雲急

△

チエツコのズデーテン地方割讓問題でドイツ及チエツコ間の摩擦も、英佛の仲裁でどうやら一時小康を保つを得たと觀られたところ、ドイツ側の要求は結局チエツコを減するものだとして容易にウンと言ひそうも無いのでドイツは業を煮やし、それでは武力に訴へてもズデーテンを取つて見せると戰時動員を行ひ、國境に兵力を集中しつゝ、所謂新覺書なるものに十月一日の期限を附し、一戰するか、それとも俺の言ふ事を聞くかとやつて居るので、歐洲の平和は再び危機にさらされることになつた

△

さすがヒツトラーの慧眼はたいしたものだ、彼は日支事變で英佛が如何に日本の爲めに味噌をつけて居るかを知り、一方日獨伊の反自由主義が團結融合の最高潮に達して、英佛露の對手ならいつでも來いとする日伊の凄い鼎息、是れならば大丈夫と見たればこそ、是處ぞとばかりにズデーテン割讓即ち多年の宿題を一擧に解決せんと急いで居るのだ

△

廿三日チエツコ首都プラーグに於ては國民大會が開かれ、ドイツの要求を撥ねつけろ、我々はズデーテンを死の床として最後までドイツの侵略を防がうと絕叫したものが有つたが、演說なかばにして政府はドイツの要求に對して斷乎たる態度を示すを得ず、或は遂に讓歩の止むなきに至るやも知れざるべし、との報を聞くや大會に參加したる數万の群集は、男も女も子供も聲を揚げて泣いた

△

そのうち或る者は起ちて曰く『我々チエツコ國民は今日まで假面の平和論を盲信し國防軍備の事を余りに等閑に附してゐた、その報を自己責任で受けねばならぬのだ、あ、國防あ、國防』と涙を流して叫んだので居合せた群集はたゞ聲を呑んで泣く者ばかり、と云ふ悲壯な光景を演出したとある

△

こんな有樣であるから窮極のところチエツコはドイツの要求を容れて屈服の外はあるまい、喧嘩をしたくても素手ぢやモノにならぬし最初はエライ腰をいれて呉れそうだつた英佛のおぢさんはエチオピア事件當時の如く、いよ〳〵自分が危くなればコソ〳〵逃げ出すし一方洪牙利や波蘭までが此の機逸すべからずと爲しドイツの尻馬に乘つて喧嘩を吹つかけに來るし、おまけに喧ましいムツソリニのおやぢまで、が鳴り立てつヒツトラーを炊きつけて、ヤレ〳〵と騷ぐので、チエツコたるもの愈々孤立無援、つまり弱い者はやがて强い者から喰はれるのだ

△

チエツコから獨への回答期日が十月一日になつてゐた處廿七日深夜に至り形勢俄然一變し獨はチエツコに對し本日（廿日）午后二時までに國境の守備兵を全部撤退しろ、若し諾かないなら直ちに實力に訴へて撤退せしめる、と最後通牒を發したので他國は國境に向つて兵力を動員、英國は海軍に對して動員と決定した

△

英國政界の大立者ロイドジョージは公開狀を發して曰く『チエツコはドイツの要求に對し讓歩するだけして居るではないか、然るに獨は飽くまで和平解決の態度に出ず挑戰的である、斯の如きものに對して英國は過ぐるエチオピア事件や歐洲大亂に於て踏める過失を再來する

△

親日僧バードレ、ギド師のヴアチカノ行きは歐洲の形勢に鑑み無期延期の由

△

廿七日夜農務省監督局から廿八日午前十時半市內シネマ館ロザリオで聖州及北パラナ州の小麥栽培情勢フイルムを映して見せるから來て呉れと使者を以て通知し來る、之は先日農務長官が巡觀した時に撮つたものだ

△

パラナ州クリチーバでは豫て青年會を作りたいとマジメな青年達が寄々相談してゐたが今度齊藤副領事がバチザして愈々クリチーバ青年會を結成した、シツカリやつて貰ひたいものだ

△

市內ビネイロスで始めた青年の向上會は漸次各方面から好感を以て迎へられ創立日尙淺きにも拘らず會員の數も六十名に增加し本月廿五日其第四回目の修養會を開催した、こんな理想的な立派な青年團に對して一部のワカラズヤが何んぢやかんぢやと批難して居るのは遺憾だが、何んでも世間から一歩進んだ仕事には必ずそうした批難は附き物だ、それを氣にしたら何んにも出來やせぬ、信じて斷行する所世評は蛙の寢言に過ぎぬ、今日のヒツトラーの信念と態度はどうだ、同憂の士よ最後までやつて呉れ。

△

近く弊社で豫て整紙に共鳴して戴く同憂の有志各位を御招きして一夜お茶でも喫つてお話を伺ひ度いと思ひますから來て下さる方はどなたでも一寸お知らせ下さい、日時は追つて通知申上ます、出席者姓名及內容は一切紙上で發表致しませぬ

飛行少年團

幼年部を新設

【東京特信】兒童にも航空思想を吹きこみ、三ツ兒の

蘇聯共產政權の暴虐を發く

實に想像も及ばぬ地球上の無限地獄

蘇聯大官赤裸々の告白

（第二面よりつゞく）

た者は忘る、ことを得ない！

△

鳴呼萬事休す？

囚人生活の眞相

夜の呼出は銃殺

私がやつと牢獄に押込まつて十分間丈け共同便所に行くことを許された時即ち一晝夜にたつた三度大小便が許されてあつた、朝の七時に各囚人に一日の食糧として砂糖の小片と裸麥製の生パン四百グラムが配給され、八時に生温い水一椀、正午及午後六時にキヤベツ糠或は引割麥の入つた汁一椀、九時に湯一椀が與へられ、それから朝の六時迄全く沈默を守らなければならなかつた

△

檢證や檢事の監督はなかつた（實際その必要がない）申告及愁訴などは全然禁止され、監督人が牢獄と上室とに連結を司り、外界の聲は、囚人呼出の形式に於て傳へらるゝのみであつた手荷物携帶の書面呼出しは解放、手荷物なる書面の呼出は監獄の事務所行を意味するものであるが、右二つの場合は甚だ稀であつた、夕刻手荷物携帶の呼出しは他の獄舍に宿泊し翌日流刑地への出發、夜間の呼出（常に無手荷物）は訊問或は銃殺を意味した、若し夜間呼出された者が、二、三日歸室せぬ場合には、銃殺された者と判定した、私が此の『立部屋』に押込らる、以前の二ケ月間內に、夜間の呼出しで歸室しなかつた者は十七名あつたとの事だ即ち彼等はスターリンの屠殺場で殺されたのである、斯の如く二、三の徵候によつて呼出され同囚の運命を誤なく判定した

△

全伯中日會が熱心に募集した慰問袋廿四頭余は第一回分として愈々日本へ送る段取になつたが、伯國當局が此擧に對して特に好意を寄せ、之に要する法規上の費用約九コントスを免除して呉れたのと、大阪商船支店では無賃輸送を引受けて呉れたのとで非常に助かつたと同會（郵函七一九番）から希望を逃べて來た

△

サントス日會から呼びかけた煙草の銀紙獻納は着々とその實を擧げ去十八日のモンテ丸で五キロ半を第二回分として發送したが母國では專賣局で銀紙を廢止した折柄、當國に於ける銀紙獻納運動に一層重大性が見出されるから、全伯邦人小學校關係者は此際兒童を動員して此擧に呼應されたいと同會（郵函七一九番）から希望を逃べて來た

△

廿七日午前十時半市內シネマ館ロザリオで聖州及北パラナ州の小麥栽培情勢フイルムを映して見せるから來て呉れと使者を以て通知し來る、之は先日農務長官が巡觀した時に撮つたものだ

△

パラナ州クリチーバでは豫て青年會を作りたいとマジメな青年達が寄々相談してゐたが今度齊藤副領事がバチザして愈々クリチーバ青年會を結成した、シツカリやつて貰ひたいものだ

△

市內ビネイロスで始めた青年の向上會は漸次各方面から好感を以て迎へられ創立日尙淺きにも拘らず會員の數も六十名に增加し本月廿五日其第四回目の修養會を

外國人諸氏へ

當 Escriptorio Geral de Informa.es Rua S. Bento 490 - 5° and. Sala 4 では外國人新取締法に基き正規の手續履行の爲め特に不正入國者及び歸化希望者の爲めに御世話します

（リオに代理人あり）

記者の雜記帳

主要產物市況

【九月廿八日現在】

- ●カフエー（四級品）一九、九〇〇
- ●アルゴドン（五級品）四七、五〇〇
- ●白米（アグーリヤ）買値 エストラボン 七三、〇〇〇 六一、〇〇〇
- ●フエジヨン買値 ムラチ！ニヨ 三六、〇〇〇 同上ポン 三三、〇〇〇
- ●ミーリヨ 一七、一〇〇
- アマレリニヨ 一五、八〇〇
- ●バタチンニヤ買値 スペリオル 一四、〇〇〇
- ボア 一〇、〇〇〇
- ●メリケン粉 一等品 四、〇〇〇
- ●砂糖（白極上）六、〇〇〇
- ●バンニヤ（箱）一二〇、〇〇〇
- ●マモーナ 五〇〇

爲替相場

對日	五、七〇〇
對英	八四、四〇〇
對米	一七、七〇〇

料亭 千鳥
ビネイロス フエルナンヂアス 五二
（女給さん數名入用）

聖市グローリア街三五二
電話二一六八四八
淺倉齒科院
●毎日曜日コチアへ出張診療（室永氏方）
Rua da Gloria 352 S.Paulo
(Largo do S.Paulo)

廣告
九月七日齊藤副領事臨席ノ下ニ『クリチーバ』青年會成立セルコトヲ茲ニ廣告ス
昭和十三年九月七日
パラナ州クリチーバ市郵函九四
クリチーバ青年臨時代表
青砥利國

告示
不正規入國者の屆出及カルテイラデ・イデンチダーデの有効期間に關する件
一、在伯外國人にして不正規に入國した者及正規に入國した者も合法的の滯在手續を執らなかつた者は本年十一月三十日迄に在リオ・デ・ジヤネイロ司法省內『外國人滯在委員會』宛に申請書を提出し滯在許可を取得せねばなりません、無旅券入國者即ち密入國者、旅行客として入國し引續き滯在して居る者、一時商用の目的で入國し引續き滯在せる者等は總て不正規入國者と看做される規定であるから此等の人は此際手續を行ふ必要があります若し右を怠る時は本月六日附當館告示の外國人鑑識手帳を取得することが出來ないのみならず將來國外追放に處せられる虞があります、尤も一九二六年以前は當國への入國は全然自由であつたのでその頃の入國者に關しては別に本件手續履行の必要は無かるべき趣當地警察側の見解であります。
一、目下外國人の持つて居る鑑識手帳は今後一ク年を經過すれば總て無効になり、新に今回新設の外國人鑑識手帳を取らねばならんこと、なつたが右外國人鑑識手帳は本年十二月十八日より發給を開始せられる規定であるから夫れ迄は特別の理由無き限り鑑識手帳の取得は差控へた方が利益である。
右本月六日附の常館告示にも發表しては置いたが茲に再錄します
昭和十三年九月二十一日
在サンパウロ　帝國總領事館

Escritorio SOOMA Ltda.
R. Fellipe de Oliveira, 21 C. P. 4418
Tel. 2-7609 S. PAULO
早く安く確實に
一、商工業者登錄
一、歸化手續
一、地權調査、問題解決
諸交涉ならば奇蹟的手腕有り
御試し下さい（各集團地に取次人を置く）
相馬法律事務所
聖市フエリツペデオリベイラ街廿一
郵函四四一八　電話二一七六〇九

明穗事務所
（海興直グ上）
呼寄、法律相談
被呼寄人提示金償還
專賣特許、商標登錄
右諸手續確實迅速ニ取扱フ
Rua Felipe de Oliveira 21 4and. Sala 18
Telef. 2-3444 C. P. 970 S. Paulo

Redacção e Administração
Rua Pires da Motta, 381 S. Paulo
Tel. 7-1614

NAMBEI SHIMPO

Director J. V. França　Proprietario Paulo Iquenaga

S. Paulo, 29 de SETEMBRO de 1938

繞る解比 瓦解の設建 人々

悟道堂圓玉（作）
丸尾至陽（畫）

六七　青木の仲人

近江屋の常は八百松をにらみつけ

常『ヤイ松、われにはこれが見えねえか』

袖口からすべらした捕縄、八百松はこれを見てニッコリ笑ひ

松『それは捕り縄だらう』

常『これが判るか、よく見ろ』

と鉄の白みがきの十手を出した

松『妙なものを見せるな、袂から變つた物ばかり出て來るの、兩國の廣小路でそいつを見せたら器用な呈藏だと錢を投げるものもあるだらう、こゝは鰻屋の二階だ、大道藝人を呼ぶことは出來ねえ、錢をくれてやるから早く歸れ』

常『これは青木の殿樣でございますか、何卒手をお引きくださいまし、こいつらは土足のまゝで座敷に踏込みまして、その上無法なことを申します、向後のみせしめ、こいつらに縄をかけてすぐに送ることにいたします』

青『イヤ待て、これそこに居る若い者、貴樣は何者だ』

と聞かれて八百松は

松『俺は神田の豐島町にある松といふごろつきだ、してお前さんは何の生靈だね』

青『生靈とは何だ、口の惡いやつだナ、俺は化物ではないぞ、青木彌太郎と申す者だ』

松『ヘエー青木の殿樣でございますか、やい〳〵青木の殿樣がおいでなすつたんだ、あばれるな』

と若い者を制して

松『殿樣、常のいふことばかり聞くとわつち共が惡いやうでございますが、氣狂ひではなし、こゝへ土足で踏み込んだには相當の理屈もございます、何卒それをお聞きなすつてくださいまし』

青『ウーム、さだめし仔細もあらう』

松『その理屈はかういふわけでございます、常は妾に今度この店を持たせ鰻屋をはじめるについて、わつち共はじめごろつきへ手拭を配りましたが、それは金をよせるためでございます、藝妓とか役者とか又その他の者でも藝人ならばごろつきへ手拭を配つて金をあつめるも無理とは思ひませんが常は御用を聞いてゐるとて、平常よりその御用聞がごろつきから錢をあつめるとは間違つたこと、思ひまして、そこで若い奴らをつれてこゝへ出て來ました、岡ッ引のことを犬と申しますよ、その犬の居る小屋でございますから土足で上りました わつちどもごろつきだが犬ではね、御覽の通りたしかに人間でございますまた御用聞きなぞは堅氣なものをいぢめて不正な金で腹を肥します、わつち共はごろつきだがそんな惡事はいたしません、手拭を配つて錢をよせるは乞食だねえ殿樣、さうではございませんか』

青『ウーム、貴樣は面白い奴だこれ常、松の申したことを聞いて何う思ふ』

問はれて常が苦い顏をしたが

常『とんでもねえことを申します、早速此奴は送つてしまひます、ヤイ松神妙にしろ！』

とまたも進み寄る。

誰れでも知つて置かねばならぬ

各種病人激增の原因

アルミニウムの猛毒（四）

恐るべき殺人的害惡は鉛毒以上

此の實證を見よ！

食物と化合し毒素となる化學權威ある實驗研究の報告

以上の事實に見てアルミニュムが人體に如何に恐るべき毒作用を呈するかと云ふ事が明白となつた、次に今、我等は觀點を轉じてアルミニウムの食器で食物を調理する時に其の食器によつてアルミニウムが如何に侵されるか、即ち

言

を換へて言ふと、『その食物の中にアルミニウムの化合物が如何に形成されるか』と云ふ事に就て研究して見ること、する

アルミニウムは三價の金屬元素であつて、強い金屬光澤を有し、柔軟にして延性、展性に富んでゐる、之は他の物質と化合し易いのである。

鹽酸、硝酸、苛性亞爾加里等の强烈なる作用を有するものは暫らく措き日常の料理に用ふる食品の大體主なる成分としては水、食鹽重炭酸曹達、酢、油脂その他有機化合物を數へることが出來るが、之等の何れは大なり小なりアルミニウムに對して化合性を有してゐるのである

特

に水、食鹽の如きは料理の總らゆる方面に使用されるのであるから、アルミニウムの食器で調理された食物中には殆ど一の例外なくアルミニウムの化合物を含有してゐると言つても敢て差し支へない。

然も之等の食物を其のまゝアルミニウムの食器調理器中に長時間を放置して置いた場合には、特に其の化合の度が甚しくなるのである、此の事實は如上諸家の研究と報告に見て明らかなるのみならず、又極めて簡單なる方法で之を實驗することが出來る。

其處で唯問題となるのは其の

食

品中に溶け込むアルミニウムの量の多少であつて、普通の場合その量は微少である、而してそれが微量であるが故に直ちにそれの毒作用を自覺する事が出來ない、然し之を長日月連續するに及びては早晩前記の如き症狀即ち便祕、食慾減退、炎病による消化器の痛み、貧血、原因不明の皮膚病等を自覺するに至り尙之が進行すれば消化器系統に到達するは前述の通りであるが、然も醫師に之がアルミニウムの中毒より來たものであるとの正しき判斷を期待することは殆ど絶望と云つても差し支へはないのである、之に就て諸家の報告を左に紹介する。

食品と化合物

米國の H. A. Mc Guigan 博士が米國聯邦通商委員會に報告せるものとして『北米合衆國陸海軍雜誌』に發表されたる同博士の發見によると左の如し

一、アルミニウムで水を煮沸すると水酸化アルミニウムを生じ

二、アルミニウムの器物で鷄卵を料理すると燐酸アルミニウムを生じ

三、アルミニウムで肉を煮ると鹽化アルミニウムを生じ

四、アルミニウムの鍋でベーコン（鹽漬ブタ）をフライすると、少量ならば昏睡を、多量ならば死を來らしむる所の麻痺性酸を生じ

五、アルミニウムの中で重曹水を煮沸するとアルミン酸曹達を生じ

六、アルミニウムの器物で野菜を調理すると水酸化アルミニウムの生成によつて毒化される此の水酸化アルミニウムは胃の消化液を中和して、其の消化能力を衰へしめ、胃腸の疾病例へば潰瘍等を惹起する、此の毒は又血液の酸毒症を惹起し、赤白球を破壞して、貧血症狀を招來せしめる。

各種容器で實驗

英國倫敦の H・W・キーンス氏は其の著『ガンと其の豫防』の中にアルミニウムとガンとの密接なる關係を發表してゐる、同氏は自身醫師であると同時に、自己のガンを自ら癒した人であるが、氏は先づ

『疾病の防止は科學よりも寧ろ自然に頼らなければならぬ』

と斷言し、更に續けて

『ガンの原因は、天然肥料に代ふるに人造肥料を以てするからであり食物を餘りにも科學的に調理することによつて變性せしむるからであり、特にアルミニウムを食物の調理と貯藏に用ふるからである』

キ

ーンス氏は家庭用植物の葉、根、皮、果實等上無機酸鹽（例へば食鹽の如き）とを種々の容器即ち硝子磁器及びアルミニウム等の容器の中で處理した場合に於ける無數の實驗をなしてゐる。

而して容器としてアルミニウムを使用したる場合には、他の容器を使用したとは常に異なる結果を得たと報告してゐる。

英國でアルミニウムが食物の調理と貯藏等に用ひられ初めたのは一八九二年である、一八九〇年には英國に於けるガンの死亡率は百萬人に對して七百一人の割合であつたが一九〇〇年には百萬人に對して一千人に飛躍してゐる

要

するにキーンスはアルミニウムの食器で食物を調理する時に、其の食物中に有毒なるアルミニウムの化合物が如何に多く溶け込むかと云ふ事を指摘してゐるのである、尙同冊子は倫敦の C. W. Daniel 商會より發行された四十六頁の書である。

座談

動物の習性から觀た

自然界の驚異（二）

（結果に於ては人間界の職業と對比の出來るものが隨分澤山ある）

○……○

虫の中で一番奇拔なのは例の屁ひり虫であらう、彼等の所謂屁は然し人間の屁とは餘程趣きを異にして居り、音を立て放出するけれどあれは氣體ではなくて、空氣と接觸すれば直ぐに氣化する性質の一種の液體である、然し何しろその臭さに於ては決して人間のそれに讓るものでなく、大抵の惡童も忽ち鼻を摘んで辟易して了ふ、是等は正に動物界に於ける砲兵の格である

此の外にもアジア、アフリカの熱帶地方及びオーストラリヤの一地方に恐ろしい硝酸の樣な臭ひのする酸性の液を相手にひりかけて逃亡する凄いのもある、一度此の液をひりかけられると局部の皮膚は暗褐色に變り十八日間は洗つても擦つても取れないそうである。

○……○

鳥の間にも獵師として甚だ巧妙なものが澤山居る、マーリンと呼ばれる猛禽類の中で一番體軀の小さいものは、雲雀や雀の樣な小鳥を追ふ際、別の一羽は高い所を舞ひ乍ら、若しか仲間が疲れて獲物を逸しやうとした時の新手を勤める、馬琴が弓張月の中で南海の鶴を舞はせて猿を居らせた話ではございませんか』

青『ウーム、貴樣は面白い奴だこれ常、松の申したことを聞いて何う思ふ』

問はれて常が苦い顏をしたが

常『とんでもねえことを申します、早速此奴は送つてしまひます、ヤイ松神妙にしろ！』

とまたも進み寄る。

在米同胞の出征皇軍慰問使旅日記（1）

生々しい戰跡を巡り感慨深し

ゲーラ氏が云ふやうな何んら尊重するに足る運動精神がそこに見られないからだ現文相荒木閣下なども此点隨處に憂慮の意を洩らして居られた、沈着二五％とか、頭腦二五％とか、耐久力や反撥心とか服從と犧牲の精神が養はれるとか云ふが、今日の野球競技に之れを當てはめることは困難であると言はれてゐる

況んや良き指導者を持たぬ在伯邦人の野球が見世物式の競技本位に墮しつゝあるのを見ると、まだ一向お若い方らしい、あの論は日本の少年雜誌に出てゐました論旨をそつくりです、私はまあ直翁氏をそうした人物とにらみましたので、『何んだ、子供のくせにあのキザな日伯須田町を眞似た書き振り、子供なら子供らしく少年世界の文章をお手本にして書いたら、いくらか上達するものを』と思ひました、運動精神へと云ふもの、講釋はモウ雜誌キングなんかで耳にタコが出來るほど讀まされて居るから誰だつてその位の理窟は心得て居る、マリリヤの一讀者氏だつてそんなことは百も先刻承知のこと、存じます、誰れだつてスポーツマンシップの如何なるものなるかを承知しながら、現在伯人邦人社會の野球競技にそれを見る事が甚だ少なく寥々たること曉天の星を數ふるやうなものです、だからそんな誤つた世界に前途多望なる大切な吾が子を迷はせて置くことは出來ない

――とマリリヤの一讀者氏は云つて居る、當然過ぎる程富然の話である、スポーツマンシップの如何なるものであるかを理解する人にして初めて斯の言を爲し得るものだ、理解無ければ野球競技に熱中する結果がどうあらうと斯うあらうと關心を持ち得ない理です、筆者は渡伯してまだ日も淺い（三年）ものです、それだけ最近の日本殊にスポーツ界の事情をイヤと云ふ程見聞して來たものである、日本では朝日新聞あたりが新聞の人氣取政策に之れを利用して昔の惰性で青少年の野球熱を煽つては居るが、健實な青少年指導階級からは他面非常な反感を買つて居る――と云ふ事實は何故であるかと云へば、眞の運動精神から遙かに遠ざかつて居る競技中心の弊が余り大きいからである、フイゲーラ氏が云ふやうな何んら尊重するに足る運動精神がそこに見られないからだ現文相荒木閣下なども此点隨處に憂慮の意を洩らして居られた、沈着二五％とか、頭腦二五％とか、耐久力や反撥心とか服從と犧牲の精神が養はれるとか云ふが、今日の野球競技に之れを當てはめることは困難であると言はれてゐる

況んや良き指導者を持たぬ在伯邦人の野球が見世物式の競技本位に墮しつゝあるのを見ると、まだ一向お若い方らしい、あの論は日本の少年雜誌に出てゐました論旨をそつくりです、私はまあ直翁氏をそうした人物とにらみましたので、『何んだ、子供のくせにあのキザな日伯須田町を眞似た書き振り、子供なら子供らしく少年世界の文章をお手本にして書いたら、いくらか上達するものを』と思ひました、運動精神へと云ふもの、講釋はモウ雜誌キングなんかで耳にタコが出來るほど讀まされて居るから誰だつてその位の理窟は心得て居る、マリリヤの一讀者氏だつてそんなことは百も先刻承知のこと、存じます、誰れだつてスポーツマンシップの如何なるものなるかを承知しながら、現在伯人邦人社會の野球競技にそれを見る事が甚だ少なく寥々たること曉天の星を數ふるやうなものです、だからそんな誤つた世界に前途多望なる大切な吾が子を迷はせて置くことは出來ない――とマリリヤの一讀者氏は云つて居る、當然過ぎる程富然の話である、スポーツマンシップの如何なるものであるかを理解する人にして初めて斯の言を爲し得るものだ、理解無ければ野球競技に熱中する結果がどうあらうと斯うあらうと關心を持ち得ない理です、筆者は渡伯してまだ日も淺い（三年）ものです、それだけ最近の日本殊にスポーツ界の事情をイヤと云ふ程見聞して來たものである、日本では朝日新聞あたりが新聞の人氣取政策に之れを利用して昔の惰性で青少年の野球熱を煽つては居るが、健實な青少年指導階級からは他面非常な反感を買つて居る――と云ふ事實は何故であるかと云へば、眞の運動精神から遙かに遠ざかつて居る競技中心の弊が余りに